



横断歩道の渡り方を確認する児童たち

春の交通安全教室 命守るルール学ぶ

交通安全教室は4月8日から23日の間、町内の保育園と小中学校で行われ、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方など交通ルールを再確認しました。

4月17日に行われた葛巻小学校（佐藤隆司校長、児童108人）では、校庭で信号機の見方や注意する点などを学んだ後、国道で実際に横断歩道を渡る練習をしました。

児童らは信号機の色が青になると、手をあげ、左右の安全を確認して足早に横断歩道を渡っていました。

自転車安全利用 江刈中がモデル校に

岩手警察署および北岩手交通安全協会、町交通安全対策協議会は江刈中学校（高橋治校長、生徒27人）を自動車安全利用モデル校に指定し4月14日、同校で指定書を交付しました。

生徒を代表して佐々木理人さん（3年）が「モデル校としての自覚を持ち、ルール、マナーを大切に、安全に自転車を利用していきます」と誓いの言葉を述べました。また、高橋校長は「みなさんの頑張りが認められての指定です。地域の模範としてさらに交通安全を頑張っていきましょう」と生徒たちの意識を高めました。



岩手警察署土生幸広課長から生徒を代表して指定書を受け取る佐々木理人さん（中央）

山火事防止対策協議会 町民の防火意識高める

町山火事防止対策協議会は4月14日、総合センターで国、県、消防機関などの関係者ら24人が出席し開催されました。

觸澤義美副町長は「暖冬で雪解けが早く、これからの時期は空気が乾燥し、山火事が発生しやすい時期です。関係機関と協力しながら、さらに町民の防火意識を高め、山林火災ゼロに向けて取り組みましょう」とあいさつ。会議では、今後の取り組み内容などを確認しました。その後、町内3方向に分かれてパレードを実施し、山火事防止を呼び掛けました。



役場前から山火事防止パレードに出発する消防車両



第41期研修生の皆さん（左から白椋俊さん、太田代歩柚さん、山形優夏さん、丹野陽菜さん）

山地酪農研修センター 決意新たに4人が入所

町山地酪農研修センターの入所式は4月7日、くずまき交流館プラトールで行われ、4人が第41期生として入所しました。

鈴木重男町長は「楽しみながら循環型農業を学び、将来生き抜く力を身に付け、食に関係する社会人として育ててほしい」とあいさつ。研修生を代表して山形優夏さん（茨城県出身）が誓いの言葉を述べました。

山形さんは「体力を付けて、仕事を頑張っていきたい」と抱負を語り、決意を新たにしていました。

暫三日市会場でP R活動 交通安全&防犯呼び掛け

町交通安全対策協議会と町防犯協会主催の交通安全と防犯のP R活動は4月13日、三日市の会場内で行われ、関係者14人が買い物客にチラシや反射材などを配り交通安全と防犯について説明し、意識を高めました。

春の全国交通安全運動の期間に合わせて実施した今回の取り組みに、交通安全母の会会長の神谷ミツ子さんは「交通事故は家族みんなの問題として一生悔やまれます。町から犠牲者も加害者も出さないように、みんなで声を掛け合いましょう」と呼び掛けていました。



買い物客に声を掛けチラシと反射材を配りながら交通安全と防犯を呼び掛ける交通安全母の会の皆さん

サイクルコースを散走 くずまきの春を楽しむ

「くずまき型サイクルツーリズム」を推進するくずまき型DMO事業に関わるメンバーは4月12日、自転車でゆっくり町を散策する「ゆるポタライドイベント」を行いました。

参加した10人は安全確認のため声を掛け合いながら、小田地区の眞山親水公園や星野地区を巡る約20*のコースを散走。休憩をはさみながらおよそ3時間の*ポタリングを楽しみました。

遠藤考則さん（43歳、茶屋場）は「今度はアシストのないクロスバイクで走ってみたい」と充実した顔をのぞかせていました。

*ポタリングとは…気分や体調に合わせて「散歩」程度に軽くサイクリングすること。



軽快に自転車をこぎ進める参加者の皆さん（サツ峠）と町内12カ所に設置されているサイクルステーション